

「米国バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-05」
～今期の決算と今後の市場見通しについて～

当ファンドは、2015年11月16日に決算を行ない、当期の分配金(税引前、1万口当たり)を40円といたしましたのでご報告いたします。

今回の決算時点において、分配原資(配当等収益などの合計額から経費を控除した額)は1万口当たり112円であり、これをもとに分配金を決定いたしました。

配当等収益額は当ファンドが獲得した受取利息および経過利子などのインカムゲインを日々計上したものです。当ファンドの設定から2015年10月末までの基準価額騰落の主な要因を見ていただきますと、キャピタルゲインはブレがあるものの、インカムゲインを安定的に獲得していたことが分かります。

なお、次頁では、運用状況および今後の見通しについてご説明申し上げますので、ぜひご一読ください。

今後とも、「米国バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-05」をご愛顧賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

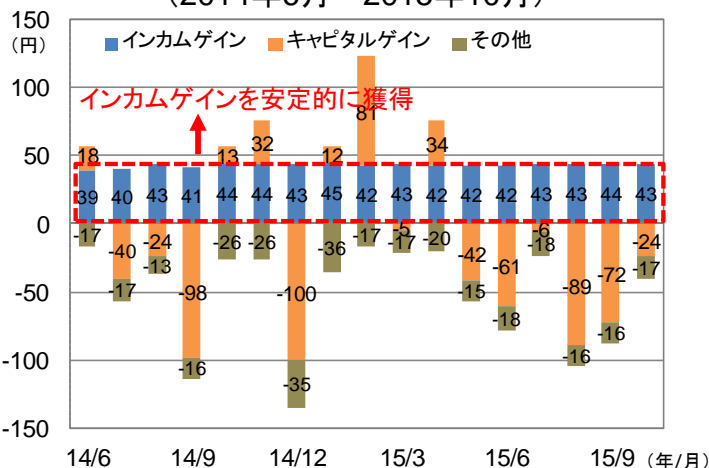
＜基準価額の推移＞

(2014年5月30日(設定日)～2015年11月16日)



＜基準価額騰落の主な要因＞

(2014年6月～2015年10月)



※基準価額は信託報酬(年率1.70802%(税抜1.5815%)程度)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。

※分配金込み基準価額とは、当ファンドに分配実績があった場合に当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※分配金額は収益配分方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※基準価額騰落の要因には、上記以外に支払済分配金額による要因があります。また、要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

※グラフおよびデータは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが「米国バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-05」の運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

運用状況と今後の見通し

【最近の市況動向と当ファンドの運用状況】

2015年8月以降、上昇する局面もあったものの、中国経済の先行き不透明感の拡がりや、軟調な原油価格、9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、世界経済の先行き不透明感などを理由に利上げが見送られたことを背景に、投資家心理が悪化し、株式やハイイールド社債などを中心にリスク資産が下落する展開となりました。ただし、エネルギーセクターの比率が相対的に低いことなどから、米国バンクローン下落幅は、相対的に小さくなりました。その後、10月には、米雇用者数の下振れを受けた米国における利上げ先送り観測の高まりや、中国における政策期待の拡がりなどから、投資家心理は改善し、米国バンクローンは堅調な推移となりました。ただ、11月発表の米雇用者数が予想を大きく上回る伸びとなり、米国の利上げに対する警戒感が高まったことから、足元で米国バンクローンは下落に転じています。

このような状況の中、当ファンドの基準価額は、不安定な市場の影響を受けて軟調な展開となりました。

【今後の見通し】

米国の利上げに対する警戒感の高まりなどから、金融市場が不安定となる局面が予想されます。9月のFOMCでは、利上げは見送られたものの、米国では継続的な労働市場の回復や住宅価格の上昇に伴う資産効果が消費を押し上げ、景気回復が続くとみられることから、米国の自律的な景気回復基調を背景に、12月には利上げが行なわれるとの見方が強まっています。ただ、その利上げペースは景気回復に配慮した緩やかなものにとどまると見込まれます。また、中国の景気減速に対する警戒感やエネルギー価格の下落を背景に、市場全体の値動きが大きくなる可能性には注意する必要があります。

そのような中、バンクローンの貸付先である米国企業のファンダメンタルズは引き続き健全な状態にあり、これはデフォルト(債務不履行)率が低水準で推移していることにも表れています。さらに、バンクローンは相対的に高い利回り水準にあることに加えて、通常の債券と比較して金利変動による影響を受けにくいという特性を有しているため、利上げに耐性のある資産として着目する投資家からの需要が期待されます。

以上

上記は、当ファンドの投資顧問会社であるピムコジャパンリミテッドからのコメントをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

■当資料は、日興アセットマネジメントが「米国バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-05」の運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。